

# 彙 報

## 本会記事

総 会 1958年度年次総会は去る7月5日楽友会館に於て行なわれた。

会長挨拶、会務報告、会計報告があつて後、新役員の選出に移り、会長及び副会長には足利惇氏、宮崎市定両教授の留任が決定した。又、幹事を増員して本会の運営を強化する事になり別項の通り決定した。総会終了後、高林藤樹氏の「バハイ教の紹介」と題する講演が行なわれた。

本年度役員（敬称略、ABC順）

会 長 足 利 惇 氏

副会長 宮 崎 市 定

幹 事 藤 本 勝 次、羽 田 明、伊 藤 義 教、加 藤 一 朗、  
中 原 与 茂 九 郎、恵 谷 俊 之、大 脇 保 彦、岡 崎 正 孝、  
高 林 藤 樹、永 元 寿 典。

会費に就いて

従来は顧問及び一般会員より会費を徴収して居たが経理事務を簡素化するため総会の委任により幹事会に於て新方式を決定した。これに依り本年10月以降、全会員は一律に「西南アジア研究」の誌代を以て会費とする事になる。尚、本誌は年3回発行の予定で代価は凡そ百円になる見込みである。

## 研究会例会

9 月 例 会： 9月30日 於 人文科学研究所講演室





「テヘランより帰って」 井 本 英 一

10月 例 会： 10月25日 於 史学科第2教室

「東南アジア調査旅行報告」 梅 棹 忠 夫

## 会員消息その他

◎ 井本英一氏： 1956年11月よりテヘラン大学に留学、ペルシヤ文字を専攻して此の程無事帰国された。

- ◎ 岩村 忍氏： ニューデリー大学客員教授として9月23日東京羽田発空路インドに向  
われた。尚、中東各地を訪問される予定である。
- ◎ 京大教養部宇治分校に本会の支部が誕生し1回生約20名が入会した。
- ◎ 森 正夫氏： 
- ◎ 小林信彦氏： 
- ◎ 吉川 守氏： 
- ◎ 加藤一郎氏： 

### 編 輯 後 記

- ◎ 中東に於ける諸般の情勢は混沌を極め全く予断を許さぬものがあるが、一方、我  
が西南アジア研究会は日毎に堅実な歩みを続け、外観内容共に次第に充実して来て  
居る事は大きな喜びである。これは偏りに諸先生の御指導と会員諸氏の御協力に依  
るものであつて、爰に第3号発行に当り感謝の意を表する。
- ◎ 雑誌第3号の意義は極めて重大である。世の拗者達は刮目してその成果を見て居  
る。何となれば第3号の成否は会自体の死命を制するものだからである。本号はこ  
の意味に於てその重大責任を立派に果たしたと言えよう。特に本号に執筆頂いた各氏  
に御礼申し上げる。
- ◎ 本号より書籍及び論文目録を載せる事にした。本誌を会員諸氏に広く御利用願  
うものにしたと言う念願から色々な企画を考えて居るが、何か参考になる御意見  
があれば是非お知らせ頂き度い。

(高 林)

#### 西南アジア研究 第三号

1958年10月28日 印刷

1958年10月29日 発行

編集兼発行者 京都大学文学部陳列館内

西南アジア研究会

代 表 者 足 利 惇 氏

印 刷 所 京都市上京区今出川通油小路東

ア テ ネ 社

電 (45) 0492